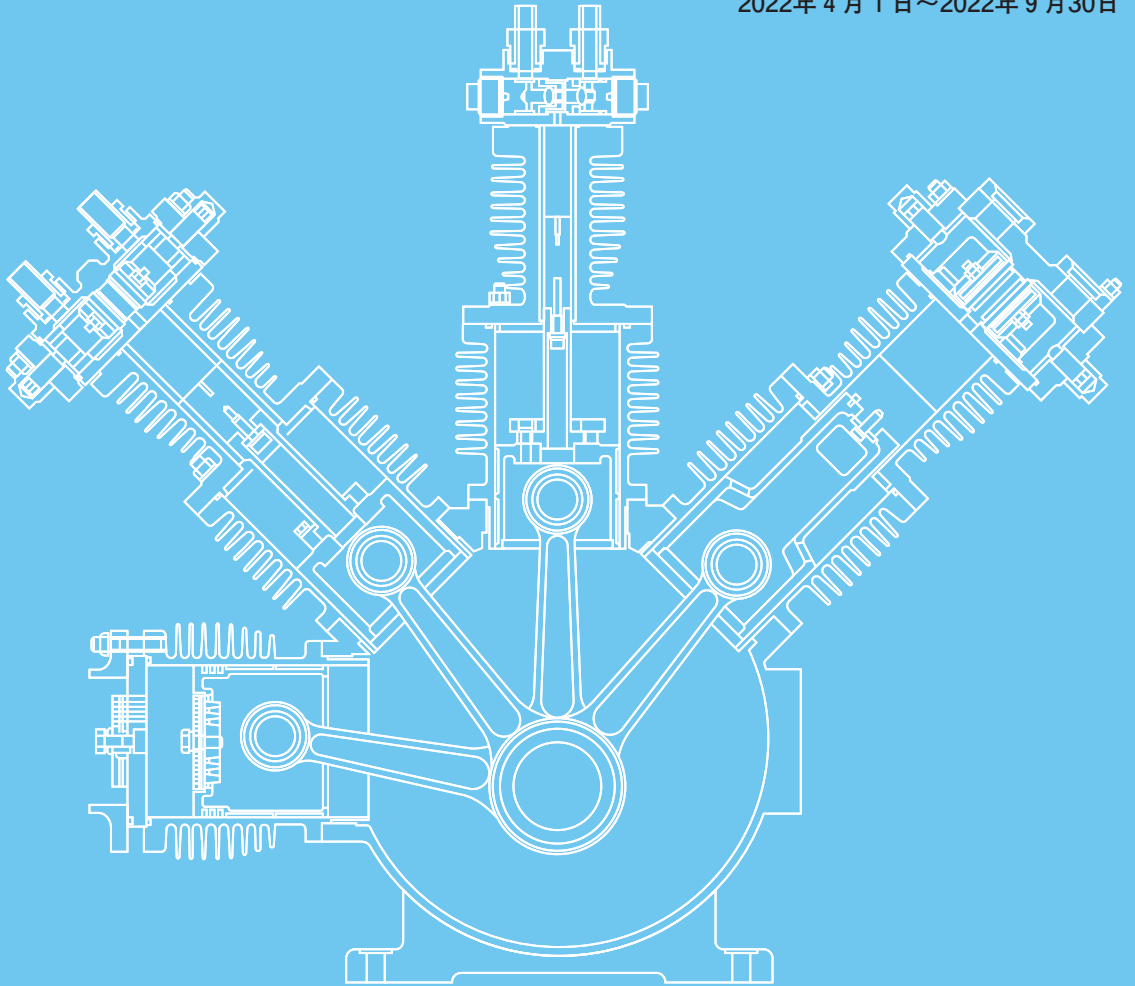


株主通信

第90期中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日



この報告書は、環境に配慮し、
植物油インキを使用しており
ます。



株式会社加地テック

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

ここに、2022年度中間期の株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

2022年度上半期における事業概況

当期上半期の我が国経済は、部品不足等の供給制約の緩和や国内における行動制限の回避等、経済活動正常化の流れが続いたことが好材料となったものの、原材料価格の高騰や新型コロナウイルス感染症第7波の流行が重荷となり、停滞感が漂う景況感となりました。

コロナ禍で抑制されていた設備投資計画は増加傾向にはありますが、原材料・エネルギー高の継続や利上げによる欧米の景気後退等、内外経済を巡る下振れリスクは依然として存在しており、先行き不透明な状況は続いております。

このような状況下、当中間期における当社業績は、大型トラック・バス等の大型燃料電池車(HDV)用水素ステーション向け圧縮機及びPETボトル成形用圧縮機の販売増加等により、売上高は前年同期比15.9%増の2,483百万円となりました。しかしながら、原材料高騰等により各案件の採算が悪化傾向にあり、売上総利益は前年同期比28.2%減の484百万円となりました。売上総利益の減少に加え、販売費及び一般管理費が前年同期比7.4%増の530百万円となったことにより、営業損失45百万円(前年同期は営業利益182百万円)、経常損失35百万円(前年同期は経常利益191百万円)となりました。一方、本社総合組立工場の竣工に際し、補助金の交付額102百万円を特別利益として計上、また旧工場解体費用19百万円を特別損失として計上したことから、中間純利益は前年同期比74.1%減の34百万円となりました。

2022年度通期における見通し

通期業績は、燃料電池車(FCV)の普及が遅れ

気味ではあるものの水素出荷設備等の水素サプライチェーン向け案件は堅調に推移しており、加えてPETボトル成形市場、プラント市場向け案件、及びアフターサービスの増加でカバーする計画であり業績予想に変更はありません。

下半期の事業活動は、来年度案件を含めた水素サプライチェーン向けをはじめとする各案件の販売促進と対応力強化に注力すると共に、水素社会に向けての水素関連事業用商品の開発・営業の強化と、アフターサービスの領域・地域の拡大と体制強化を推進してまいります。

当社の強みと社会・事業環境の変化を照らし合わせ、2030年のありたい姿として、KAJI 2030VISIONを6月に発表しました。この2030VISIONの実現に向けた戦略を確実に実行することで、当社の企業価値向上を図り、事業を通じた持続可能な社会の実現を引き続き目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の目指す方向性に対するより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2022年11月

代表取締役社長
鈴木 博士

(単位：千円)

長期経営計画「KAJI 2030VISION」について

当社は、私たちを取り巻く社会、事業環境の変化を踏まえ、加地テックが未来に対し何ができるのか、当社の存在意義(パーパス)を明確にするために、「2030年のありたい姿」を示した「KAJI 2030VISION」を2022年6月15日に発表しました。

「KAJI 2030VISION」において、「Create the Future KAJIの力、地球のために」をスローガンに、「2030年のありたい姿」を

超高压技術でカーボンニュートラル社会の実現に貢献する「モノづくり」&「ソリューションサービス」企業

カーボンニュートラル社会の実現に要求される製品の開発を通して、超高压圧縮技術で常にカーボンニュートラル市場をリードし、地球環境の保全に貢献している。

とし、当社の存在意義(パーパス)を示しました。

そして、既存市場における圧縮機ビジネスにおいて、事業拡大と収益力を向上させ、その原資を基に来るべきカーボンニュートラル社会の実現に向けた製品開発・商品化を推進し、カーボンニュートラルに向けた新しい市場において超高压圧縮技術でトップシェアとなるために、次の4点を基本方針としました。

基本方針01：当社の強みである超高压技術を使ってカーボンニュートラル社会の実現に要求される製品を開発し、新しい市場において先行して商品化を進め超高压圧縮技術で常に市場をリードしていく。

基本方針02：既存事業のQCD強化により製品競争力を高め事業を拡大する。

基本方針03：Lifecycle Solution Service型ビジネスを志向したアフターサービスの拡大により収益力を向上する。

基本方針04：超高压圧縮技術で、海外市場においても存在感を示す企業となる。

2030年経営数値目標

売上高	110億円
営業利益	11億円(営業利益率10%)
純利益	8億円
ROE	8%

当社は「2030年のありたい姿」とその経営目標の実現に向け、上記の基本方針を確実に実行することで、当社の企業価値向上を図り、持続可能な社会の実現を目指します。



資 産 の 部		金 額
科 目		
流 動 資 産		
現金及び預金		893,570
受取手形		57,615
電子記録債権		316,764
売掛金及び契約資産		1,246,312
棚卸資産		2,310,019
預け金		1,200,000
その他の流動資産		119,257
貸倒引当金		△13,100
流動資産合計		6,130,439
固 定 資 産		
有形固定資産		3,591,668
無形固定資産		99,136
投資その他の資産		347,241
固定資産合計		4,038,046
資 産 合 計		10,168,485
負 債 の 部		
科 目		
流 動 負 債		
支払手形		113,279
電子記録債務		429,698
買掛金		246,391
短期借入金		10,000
1年内返済予定の長期借入金		26,308
未払法人税等		29,249
契約負債		67,329
賞与引当金		154,580
受注損失引当金		162,300
その他の流動負債		331,066
流動負債合計		1,570,203
固 定 負 債		
長期借入金		1,473,692
退職給付引当金		556,788
その他の固定負債		17,480
固定負債合計		2,047,961
負 債 合 計		3,618,164
純 資 産 の 部		
株 主 資 本		
資本金		1,440,000
資本剰余金		1,203,008
利益剰余金		4,008,823
自己株式		△110,488
株主資本合計		6,541,343
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益		8,977
評価・換算差額等合計		8,977
純 資 産 合 計		6,550,321
負 債 ・ 純 資 産 合 計		10,168,485

中間損益計算書 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	2,483,005
売 上 原 価	1,998,092
売 上 総 利 益	484,912
販売費及び一般管理費	530,291
営 業 損 失 (△)	△ 45,379
営 業 外 収 益	17,597
営 業 外 費 用	8,019
経 常 損 失 (△)	△ 35,801
特 別 利 益	102,400
特 別 損 失	19,313
税引前中間純利益	47,285
法 人 税 等	12,870
中 間 純 利 益	34,415

(注) 1 株当たり中間純利益 (期中平均株式数による) 20円80銭

中間株主資本等変動計算書 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計
2022年4月1日残高	1,440,000	1,203,008	1,203,008
当中間会計期間中の変動額			0
剰余金の配当			0
中間純利益			0
自己株式の取得			0
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額(純額)			0
当中間会計期間中の変動額合計	0	0	0
2022年9月30日残高	1,440,000	1,203,008	1,203,008

	株 主 資 本					株主資本 合 計
	利 益 剰 余 金				自己株式	
	利 益 準 備 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
			利 益 剰 余 金 合 計			
2022年4月1日残高	141,600	625,000	3,274,001	4,040,601	△110,374	6,573,235
当中間会計期間中の変動額						0
剰余金の配当			△ 66,193	△ 66,193		△ 66,193
中間純利益			34,415	34,415		34,415
自己株式の取得					△ 113	△ 113
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額(純額)						0
当中間会計期間中の変動額合計	0	0	△ 31,778	△ 31,778	△ 113	△ 31,892
2022年9月30日残高	141,600	625,000	3,242,223	4,008,823	△110,488	6,541,343

中間キャッシュ・フロー計算書(要旨) (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)

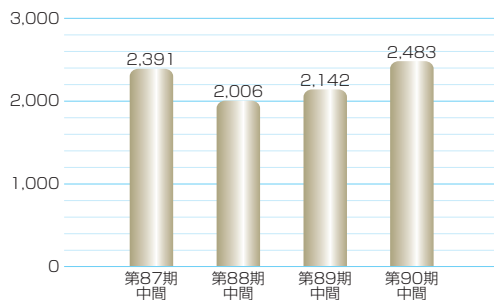
(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	232,960
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 543,466
財務活動によるキャッシュ・フロー	432,846
現金及び現金同等物の中間期末残高	893,570

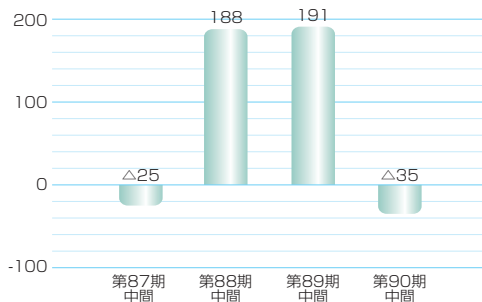
	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 計
	繰 延 損 失	ヘ ッ ジ 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
2022年4月1日残高		1,038	1,038	6,574,274
当中間会計期間中の変動額				0
剰余金の配当				△ 66,193
中間純利益				34,415
自己株式の取得				△ 113
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額(純額)	7,939		7,939	7,939
当中間会計期間中の変動額合計	7,939		7,939	△ 23,953
2022年9月30日残高	8,977		8,977	6,550,321

業績ハイライト

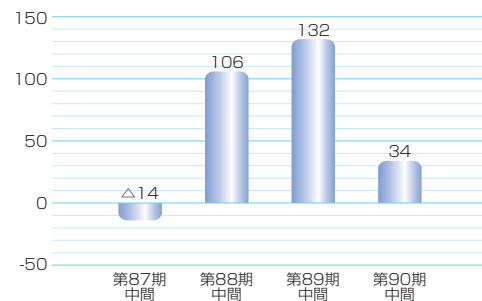
■ 売上高 (単位：百万円)



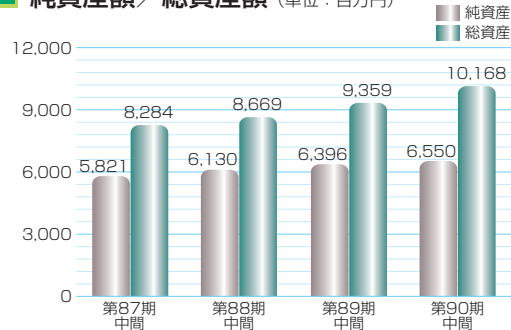
■ 経常利益又は経常損失 (△) (単位：百万円)



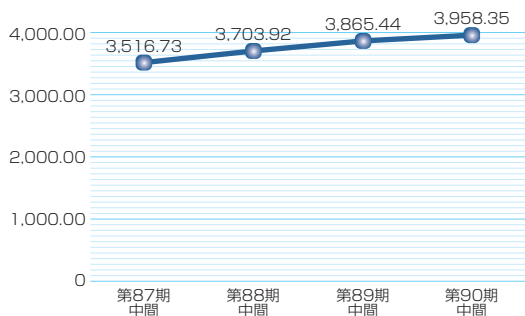
■ 中間純利益又は純損失 (△) (単位：百万円)



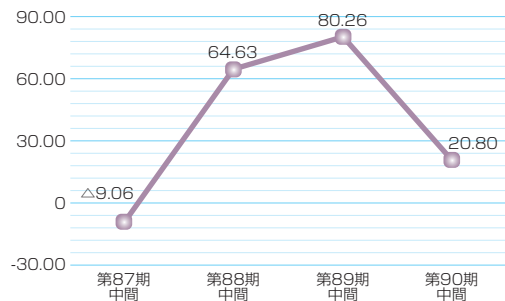
■ 純資産額／総資産額 (単位：百万円)



■ 1株当たり純資産額 (単位：円)



■ 1株当たり中間純利益又は純損失 (△) (単位：円)



会社の概要

社名	株式会社加地テック KAJI TECHNOLOGY CORPORATION
創立	明治38年5月(1905年)
会社設立	昭和9年2月(1934年)
資本金	14億4,000万円(東京証券取引所スタンダード市場上場)
製造品目	空気及びガス圧縮機 水冷・空冷式圧縮機 給油・オイルフリー・オイルレスタイプ圧縮機 石油化学・産業ガス用 電力・試験・一般産業用 PETボトル成形用 天然ガス自動車燃料充填用 燃料電池自動車燃料充填用 各種ガス回収精製装置
所在地	本社・工場 〒587-0064 大阪府堺市美原区菩提6番地 TEL: 072-361-0881(代表) FAX: 072-362-4491(人事総務部) 東京支社 〒134-0086 東京都江戸川区臨海町3丁目6番4号 ヒューリック葛西臨海ビル4階 TEL: 03-5679-6910(代表) FAX: 03-5679-6950

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場
株主名簿管理人兼特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付及び電話お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324(フリーダイヤル)
特別口座管理機関取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) [アドレス] https://www.kajitech.com ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。